

飼養衛生管理基準ガイドブックを活用しましょう！

家畜の所有者は、家畜伝染病予防法の中で定められている飼養衛生管理基準を遵守しながら、家畜の飼養に係る衛生管理を行うことが義務付けられています。また既に皆様にお知らせしているとおり、令和2年度(2020年度)シーズンの高病原性鳥インフルエンザの大流行及び豚熱のワクチン接種農場での継続的な発生を踏まえ、令和3年10月1日に飼養衛生管理基準(全畜種)が改訂されたところです。

農林水産省のHPでは、指導する立場の方向けの『飼養衛生管理基準遵守指導の手引き』や、生産者向けの『農場における飼養衛生管理マニュアル例』、『飼養衛生管理基準ガイドブック』が公表されています。中でも、『飼養衛生管理基準ガイドブック』では漫画を交えて、疾病の発生予防のポイントなどが分かりやすくまとめられています。本ガイドブックは、農場立入りの際等に当所から生産者の皆様へ配布していますが、HPからは外国語版や動画版も見ることができますので、是非御活用ください。



農林水産省HPより

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_shiyou/

家畜の伝染性疾病の発生に注意！

現在国内では、高病原性鳥インフルエンザや豚熱などの悪性家畜伝染病だけでなく、生産性の低下につながる豚流行性下痢(PED)も発生しています。暖かい季節が待ち遠しいところですが、農場消毒や防鳥ネットの補修等、伝染性疾病の発生予防対策を継続しましょう！

- 高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)
最終発生：令和4年(2022年)2月12日 岩手県
- 豚熱(CSF)
最終発生：令和3年(2021年)12月25日 宮城県
- 豚流行性下痢(PED)
九州での発生：令和4年(2022年)1月23日 長崎県



忘れないで

日本は現在、「ワクチン非接種口蹄疫清浄国」です。
 平成22年(2010年)4月20日に宮城県で口蹄疫が最終発生してから、もうすぐ12年です。
 口蹄疫が発生していない日常に感謝しつつ、再発させないために発生予防対策を継続して実施しましょう！

牛のウイルス性異常産をワクチンで予防しましょう！

流産、早産、死産、体形異常などを主徴とする「牛の異常産」は、細菌、ウイルス、栄養障害など様々な原因で発生します。中でも、蚊やヌカカが媒介するアカバネ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病による異常産は、時に大規模な発生となり、経済的な損失が大きいと言われています。牛の異常産は全国で散発しており、熊本県でも2013年及び2019年に牛のアカバネ病が、更に2019年には牛でピートンウイルスの関与が疑われる異常産が発生しました。異常産を引き起こすこれら4つの疾病は、ワクチンを接種することで予防できますので、母牛にワクチンを毎年接種し、農場及び地域全体の抗体保有率を高めることが重要です。

疾病名	アカバネ病	アイノウイルス感染症	ピートンウイルスの関与を疑う異常産	チュウザン病
発生時期	夏～翌年春			秋～翌年春
臨床症状				
	水無脳症（大脳欠損や小脳欠損）			
ワクチン	異常産3種混合ワクチン（アカバネ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症） 異常産4種混合ワクチン（上記+ピートンウイルスの関与を疑う異常産）			・虚弱、盲目、起立不能 ・体形異常はない ※デアギュラウイルス感染症も同様の症状
	・ウイルスを媒介する吸血昆虫（蚊やヌカカ）が活発化する前に接種する。 ・未経産牛及び前年度未接種の繁殖牛に4週間隔で2回、筋肉内に接種する。 ・前年度に接種経験のある牛は、1回、筋肉内に接種する。			

海外悪性伝染病発生状況

病名	型	発生地（国）	畜種	発生日月日
高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI)	H5N1	韓国（19件）	家さん（産卵鶏、ブロイラー種アヒル、肉用アヒル、ウズラ）	令和4年1月29日～令和4年2月22日
		韓国（10件）	野鳥	令和4年1月13日～令和4年1月27日
		香港	家さん	令和4年1月21日
		ロシア	家さん	令和4年2月5日
	H5N2	台湾（7件）	家さん	令和4年2月8日
	H5N8	韓国	野鳥	令和4年1月23日
アフリカ豚熱 (ASF)		韓国	野生イノシシ	令和4年2月11日
		香港	野生イノシシ	令和4年1月12日
		ロシア	豚・野生イノシシ	令和4年1月24日

令和4年(2022年)3月1日現在



毎月20日はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

